

MDJ ファイナル・レポート

interpack 2014

国際包装産業展

2014年6月2日

来場者数およそ 175,000 人を記録！

興奮冷めやらない雰囲気の中、大成功裡に閉幕

デュッセルドルフ見本市会場の全 19 ホールを使用し、約 2,700 もの出展者が世界 120 か国およそ 175,000 人(うち 66%はドイツ国外から)の来場者に対し、新製品や最新のソリューションを提供した interpack 2014 は、終始活気にあふれ、興奮冷めやらない雰囲気の中、その幕を閉じた。来場者の質が高く、『一時的に展示ブースが満員になり、対応しきれない状態があった』と振り返る出展者も少なくなかった。今年に来場者の特徴は、専門的



な知識が豊富で、これまでよりも一層投資を熱心に考えていることが挙げられる。出展者のなかには、事前に面談の約束をしていない来場者との商談も成立した、とも報告している。

interpack 2014 へ、日本から直接出展したのは 29 社、ドイツおよび欧州の子会社から参加した日系企業は 15 社にのぼる。また、日本からの来場者数は 1,200 名超と推定されている(日本から直接出展した企業リストは[こちら](#))。

interpack 2014 実行委員会会長(ボッシュ・パッケージングテクノロジー重役)の F. クレフェンツ氏は、『来場者の質・量ともに、大いに満足している。世界中で健康と食品産業に大きく貢献する弊社の製品に対する来場者の関心は非常に高く、多くのコンタクトを獲得できた。この中には、各企業の重役や新規顧客が多く含まれる。出展・来場双方の国際性の高さには、元気づけられた。出展者に至っては、実に 75%はドイツ国外からの出展である。

interpack
PROCESSES AND PACKAGING
LEADING TRADE FAIR

**DÜSSELDORF
GERMANY
08 TO 14
MAY
2014
INTERPACK.COM**

株式会社メッセ・
デュッセルドルフ・ジャパン
担当 橋本 雅弘

〒102-0094
東京都千代田区
紀尾井町 4-1
ニューオータニ
ガーデンコート 7F

Tel.: 03-5210-9951
Fax: 03-5210-9959


Messe
Düsseldorf
Japan

interpack は、世界的に重要なメッセとしてその名を一層高めたと言える。』、と今回を総括している。また、主催者であるメッセ・デュッセルドルフ代表取締役社長 W. M. ドーンシャイトは、『interpack は、今回も世界の包装産業に大きく貢献した。弊社は、国際的規模の業界専門メッセ開催周期を 3 年ごとに設定しているが、おかげで包装業界に対しても、十分な時間をもってアプローチできており、これが成功のカギのひとつと言える。』、と述べている。

今回話題となったテーマは、機械やプラントにおける原料の有効利用、包装資材においては被包装物(特に食品、飲料、薬品)の質と安全の保証、多様化する製品、生産サイクルの短縮化への対応の多様性と柔軟性で、各ホールの斬新な製品には、この傾向が顕著に表れていた。また、将来の包装が把握できる『Innovationparc Packaging』や、金属包装をあつかった『METAL PACKAGING PLAZA』が、前回同様特別展示エリアとして設置され、業界に新風を送りこんだ。このように、interpack は商談の場としてのみではなく、業界に新しい流れを起こすことにおいても、大いに貢献している。

国際連合食糧農業機関(FAO)と、メッセ・デュッセルドルフを含む民間企業 110 社から構成される、食品ロスを防ぐための活動『SAVE FOOD』は、interpack 会期前日から『SAVE FOOD Congress』を催した。会議には、国連や FAO の代表者をはじめ、セネガルの大臣で音楽家でもある N'Dour 氏、前ドイツ連邦食糧・農業大臣 R. キュナースト氏など、450 人が参加した。



メッセ・デュッセルドルフ・ジャパンの活動

ジャパン・パビリオンの設置・運営

好評を得ているジャパン・パビリオンを、interpack では本年初めて設置・運営を行った。各出展参加企業に対しては、煩雑な出展準備を軽減し、また信頼性の高い『ジャパブランドイメージ』を前面に押し出し、世界に向けアピールすることを目的としたパビリオンには、8 つの企業・団体に出展



参加いただいた。会期 2 日目の 5 月 9 日午後には、ジャーナリストをパビリオンに招待し、各出展者とのインタビューを組むなど、出展効果を上げていただくプログラムを積極的に行った。結果、『これほど世界中の意思決定者とコンタクトをとれるとは思っていなかった(共同紙工(株))』、『予想以上だった(ニッカ電測(株))』、『新たなチャネルの開拓、市場調査という目標は、ほぼ達成した。(ゼネラルパッカー(株))』、といった感想をいただいた。

Japan Technology Forum

日本の優れた、そして斬新な包装技術を、外国の業界メディアやユーザーに向け発表する『Japan Technology Forum』を、5月9日に実施した。参加者の誘致は、メッセ・デュッセルドルフ本社プレス担当、同在外代表部、そしてデュッセルドルフ商工会議所を通じ、実施した。(株)岩田レーベル、クオリカプス(株)、パットラス(株)+(株)古川製作所に発表いただいた。

Japan Day

広大な会場で、日本からの来場者の皆さまに、メッセ訪問の成果を最大限に得ていただくため、弊社では、会期中の5月12日を『Japan Day』とし、次の3つのプログラムを用意した。

会場巡回ハイライトツアー： 業界注目の、あるいは話題になっている出展者を、マテリアルと機械分野から選出し、その出展者ブースを訪問、各社からプレゼンテーションを受けるもので、参加人数



を、マテリアル部門、機械部門とも各20名としたが、早々に満席となり、多くのかたにキャンセル待ちをお願いしなければならない状況となった。ちなみに、マテリアル部門として、Dow Europe、METAL PACKAGING PLAZA、Mondi、PrintCity、SCHÜTZを、機械部門では、Robert Bosch、GEA Food Solution、IMA Industria Macchine、MULTIVAC、Theegarten-Pactecを訪問した。

現地セミナー： 業界のホットなテーマや、日本の方々に関心をお持ちのトピックスを選定し、現地の団体や研究所から講師を招き、実施した。『ドイツ包装産業のトレンドと今後の展開』、『包装機械に関する欧州安全規格』、『消費者に支持される包装』、『包装とバイオプラスチック』が取り上げられ、およそ50名の参加者は熱心に耳を傾けていた。

懇親会： Japan Dayの締めくくりとして、18時から会場敷地内のコンgresセンター(東)で懇親会を開催、interpackの出展・来場者の方々に多数ご参加いただいた。ドイツ料理を囲み、なごやかな雰囲気の中、情報交換が活発に行われた。



interpack 2017

今回は、2017年5月4日(木)～10日(水)にデュッセルドルフ見本市会場で開催される。

『interpack』に関する情報・お問い合わせは、[メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン](http://www.interpack-messe.com)、あるいは日本語ホームページ <http://interpack.messe-dus.co.jp/> をご覧下さい。